

郷土を愛し、自ら人生を切り開く、

生徒の育成を目指して

喜界高等学校

喜界高校のある喜界島は、平成21年に「日本で最も美しい村」に選出されました。人が自然を壊すことなく上手につきあ

つて生活し、住民の絆がとて強い島です。そのような島で、生徒は学校だけでなく保護者や地域の方々に愛され育てられています。特別なことはせずとも感謝する心を育むことができる地域一体型の高校です。

学校をとりまく環境

本校は奄美大島本島の東側25kmの太平洋上に位置する喜界島唯一の高校です。喜界島は人口約

七千人、一周約48kmの隆起サンゴ礁でできた島で、現在も1年間で2mmの速度で隆起しています。極めて早い隆起速度により世界でも類まれなるサンゴ礁段丘の景観を今に残しています。これまで多くの国際的な海洋地質学的研究の舞台となってきた島でもありません。本年度、喜界島サンゴ礁研究所や喜界町の小・中学校と共同でサンゴに関する研究を行う予定です。許可を得てサンゴの飼育やサンゴの化石の年代測定、サンゴの石灰化量の測定など喜界島の成り立ちと地球環境を

総合的に学習します。歴史的には、太宰府の支配地であった12世紀に大規模な製鉄炉があったことを示す遺跡群が発見され、南島史を大きく塗り替えました。

21世紀になった今でも島での伝統的な行事は受け継がれています。旧暦の8月、9月に行われる豊年祭（島遊び）では高校生も参加して奉納相撲や八月踊りが行われています。体育大会では、毎年順番に違う集落の八月踊りを踊っています。喜界高校生は、地域に育まれて生活しており、その恩返しを地域貢献という形で表しています。

大会にも多くの生徒が参加し、午後7時からの集落主催の練習にも積極的に参加しています。どの行事も高校生が原動力となり、高校生がいなくては地域の行事が成り立たないとと言われるほど重要な存在になっています。全校生徒約200人に対し、昨年度、地域貢献活動に参加した生徒は延べ450人にのぼりま

連携型中高一貫教育

本校は、平成15年度から喜界島内3中学校と連携型中高一貫教育を実施しています。乗り入れ授業や合同職員会議、中高合同発表会、合格体験発表会、部活動の合同練習など、学業以外にも中学校と連携をとりながら活動しています。昨年度の発表会では、中学生が「喜界島と太平洋戦争」、高校生が「喜界島への提言」というテーマで、それぞれグループが発表しました。高

校生のうち一つのグループは、「公園」について提言しました。公園の利便効果の研究に始まり、遊具の購入費、修理代なども調べ、理想の公園を作ることで、心身ともに健全な町民を育成するという目標を掲げています。もう一つのグループは5年前に統廃合された町内の小・中学校12校の跡地を利用して喜界町の活性化ができないか、ということ提言しました。喜界島の特産物を作る工場に体育館や教室が利用できるのではという発表でした。いずれも高

PTA活動

毎年8月の第3日曜日に行われるPTSOクリーン大作戦には、保護者・教員・生徒・同窓会員が参加します。午後5時半から学校の除草作業を中

PTSOクリーン大作戦の様子



心に行っていますが、昨年度は220人が参加しました。草刈り機を持参していただき、グラウンドや学校周辺の土手まできれいにしてもらい、9月上旬の体育大会を気持ちよく迎えることができました。他にも榕樹祭（文化祭）で物品バザー・食物バザーを行っています。PTAの方々が、学校に積極的に協力する姿を見ることで、生徒はふるさとを愛し、感謝する心を自ずと育み、地域に貢献する人材に育ってきます。喜界高校は、保護者と地域とともに生徒を育てる熱意がある素晴らしい高校です。

※クイズの答(○)
(教諭) 常盤 真紀

地域貢献活動

4月の喜界島マラソンでは、オリジナルスタッフTシャツを販売し、その売り上げで参加者への記念品を作成しました。「オオゴマダラのさなぎは金色である。○か×か」というクイズを作成したり、応援ボランティアや給水ボランティアなどをしたりして、大会を陰で支えています。また、町民体育大会や駅伝



喜界島マラソンのボランティアスタッフとして活動中の喜界高校生